
真偽不明の恋

瀬戸律久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真偽不明の恋

【Nコード】

N9480T

【作者名】

瀬戸律久

【あらすじ】

恋がしたかった。ただ、それだけだった。だから相手など誰でもよかった。誰にも気づかれずに始まり、誰にも知られずに終わるはずだったのに…。

とある夏の日、僕は1人の女の子と出会った。

その女の子のことは名前だけは知っていた。でも名前しか知らなかった。

だから、たまたま出会うことになったあの日、僕は期待など全くしていなかった。

実際、会ってみての第1印象は「普通」だった。

「普通」であることに安堵したくらい、僕は期待していなかった。

その日はあまり会話をしなかった。いや、できなかった。

元々、人見知りの性格に女の子と接する機会の無い人生を歩んできた僕には、初対面の女の子との会話など不可能だった。

でも、それでもよかった。というか、問題なかった。

その時、僕は彼女には興味なかったし、また彼女も僕には興味なかった。

その後、何度か一緒に遊ぶ機会があった。

そうしている内に、少しずつ会話もできるようになっていった。

会話の中で少しずつ彼女のことがわかってきた。

まず、趣味があわない。そして、ノリもあわない。

惹かれる理由など一つもなかった。

だけど、僕はそんな彼女に恋をしてみることにした。

「恋」がしたかったのだ。

恋人が欲しかったのではなく、ただ「恋」をしたかった。

だから、彼女に「恋」をしてみることにした。

その日から、四六時中彼女のことを考えた。

遊んでいる時は彼女のことをひたすら目で追い続けた。

そうして僕は、彼女に恋をしていった。

偽りの恋ではあったけど、それでよかった。

「恋」をしたいという僕の願いは叶っていたのだから。

だけど、そんな日々は長くは続かなかった。

僕の恋心が周囲に気づかれ始めた。そして彼女にも…。

彼女のことをずっと見ていた僕は、彼女がいつも誰を見ていたかを知っている。

叶わぬ恋だとわかっていた。

周りに、そして彼女に僕の恋心が知られた時点で、僕の恋は終わった。

数カ月後、彼女が男性と腕を組み楽しそうに歩いているのを見た。

僕は胸が痛くなった。

偽りではあったけど、好きだった人のそうつた姿を見ると少し切なくなる。

今思えば、アレは本当に偽りの恋だったのだろうか。

もしかしたら、本当に彼女のことが好きだったのではないだろうか。

趣味もノリも合わない彼女。

本気になるわけない。

本気ではないのだから、振られても辛くない。

だから彼女を選んだ。

だから彼女に恋をした。

だから、だから、だけど。

あの時、僕は確実に彼女のことを好きだった。

今、僕には付き合って3年の恋人がいる。

彼女には一目惚れに近い形で恋をした。

彼女のコトは心から愛していると、胸を張って言える。

彼女には黙っているけど、今度の旅行の時にプロポーズをする予定だ。

(後書き)

リア充爆発しろ。

感想などあればよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9480t/>

真偽不明の恋

2011年10月8日20時28分発行